



大切な大人の一言

安城中部小学校長

稲 留 雄 一

気温の変化が激しく、体調管理が難しい春先の天候から、ようやく安定した心地よい気候へと移り変わってきました。令和7年度も一か月ほど過ぎましたが、ご家庭での子どもたちの様子はいかがでしょう。本年度も真新しいランドセルを背負った1年生を仲間に加え、中部小学校は一段と明るくなったように感じます。登校中に6年生の手をぎゅっと握って登校する1年生の姿や、自転車の通行に気づいた高学年の子どもが、前を行く1年生に声をかけながらランドセルに手を添える姿を目にすることのできる幸せを感じています。何人かの保護者の方も、遠巻きに子どもたちの登校を見守ってくださいます。本当にありがとうございます。

体育館南側の藤の花が美しい紫色の花をつけています。近づくとともに良い香りがします。近くにいた男の子たちに「いい匂いだね」と話しかけたところ、「鼻がつまっていたわかりません」とご丁寧な返事をもらいました……。ミニ明治用水の水にも春のぬくもりを感じます。小さな生き物とかげがえのない出会いをするであろう子どもたちの姿が目につくようです。

遅れて食事を終えた長男。珍しく自分で洗った茶碗が伏せてありました。それを見た母親は、台所にいた長男に「もう少しきれいに洗ってくれるといいのに」と一言。その後長男は二度と茶碗を洗うことはしなくなりました。

長男は、どんな気持ちで茶碗を洗ってくれたのでしょうか。思い浮かべたのは、母親がニコニコしながら「ありがとう。助かったよ」だったのかもしれませんが。母親には長男を責める気持ちなど毛頭ありません。心の中では「洗ってくれたんだね。ありがとう。ここをもうちょっと洗ってくれるともっと嬉しいな」と思っていたのでしょうか、出た言葉はその中のほんの一部だったのでしょうか。難しいものです。

新しいクラスでの活動が始まりました。係活動や当番活動、委員会活動もスタートしました。昨年度のアンケートで中部小学校では「人の役に立ちたい」と考えている子どもはとても多いのですが、「自分は人の役に立っている」と思っている子どもはそれほど多くないという結果でした。子どもたちが「自分は人の役に立っている」と自覚することは、自尊感情や自己有用感を高めることにもつながり、やる気やしなやかで折れない心を育てるためにもとても重要だと思います。係の仕事や当番活動をきちんと行うことは、人の役に立つとても素晴らしいこと、尊いことであるということを教職員がきちんと子どもたちに伝えるよう心がけ、子どもたちを支えていこうと考えています。うまくいった結果よりも、取り組む姿そのものの認めていきたいものです。

洗った茶碗に残っていたご飯粒のかけらを見た時、どんな一言をかけてあげればよかったのでしょうか。そんな長男ももう父親になっていますが……。

